

もみ山だより

編集 小松子供もみ山保存会

瀬戸・祭りに関する「し」報告生口

保存会会長 河原光雄



コロナ禍が続き、小松の初夏の風物詩である「瀬戸祭りのもみ山」が運行休止状況にあるのは、とても淋しい思いです。今年も4月10日に実行委員会（小松地区の神社総代、自治会・加勢関係者）が開催され、祭事としては、例年どおり実施するが、加勢は中止とすることを話し合いました。

これを受け、5月12日には恒例の神社境内（瀬戸公園）の清掃作業が、地元（小松・三浦）自治会の方々により、きれいに整備されました。老木等が伐採され、海がよく見える快適広場になりました。

14日（土）には、夜襲祭が行われ、15日（日）午前中、小松コミュニティセンターに祭典事務所が設置され、祭礼費の受付が行われました。また、午後には神慶祭が行われ、御神幸は中止となりましたが、神事はとどろりなく挙行されました。

加勢「もみ山」関係の活動状況

三年続きで運行が休止となり、再開を願う人の声を数多く聞き力強く思っておりますが、何分にも人が集まることに制限される状況にあり、誰もが忸怩たるものを感じておられることでしょう。

当保存会では、これまでも次の4項目のコンセプトを掲げ活動しております。

- もみ山の継承・運営（続ける）
- 伝統行事の保存（記録を残す）
- 青少年の健全育成（地域で子育て・育成）
- 地域のなごやかな人間関係づくり・活性化（つながり・元気）

「これを元にささやかではありますが活動も続けており、その一つが「紙上交換」です。当初、この試みの可否が心配されましたが、みなさんの建設的な声を集約しフィードバックすることで深まりのあるものになって行きました。その内容は概略、次のとおりです。

- 練習時間の短縮や山車組み作業の工夫
- 運行コースの見直し・短縮、半日日程
- 乗子・担ぎ手の確保、学校との連携
- 大人の協力者の呼びかけ、雨の改善
- もみ山の小型化 等々

この他にも、行政への協力要請や、しやぎりと連携強化、さらには、少子化が進む中で、学校移転に関わる問題まで、避けては通れない課題を真剣に考えておられる方も多く皆さんのもみ山愛・郷土愛を強く感じているところです。運行が三年間休止で発生して来た問題も多々あります。その一つに、「山車組み」があります。今は乗子が乗る太鼓山（曳山）と子供たちが担ぐ、もみ山（かき山）があり、これらの山車は毎年解体され祭りの時期に組み立てられます。

また、かき山は、長年にわたり激しく揺り動かされ老朽化したので、三年前に新調しましたが、まだお披露目が済んでない状態です。

この祭りは、かつて機帆船等で活躍した人々が航海の安全を祈願したものと云います。そんな海の男たちが演じる「もみ山」は、激しく揺り動かすので、ボルト等で固定すると破壊してしまいます。そこで、結束（ロープワーク）に特徴があり、それを継承の要点としています。

これまでも、写真や図示、ビデオの形で記録を残してきましたが今回、山車組みの結末見

本の制作を企画し、元船乗りで保存会メンバーの安本武光氏に依頼しました。立派な見本ができましたが、安本さん曰く「やっぱり、みんなが実地にやらんと、細かいところは伝わらんよね」でした。

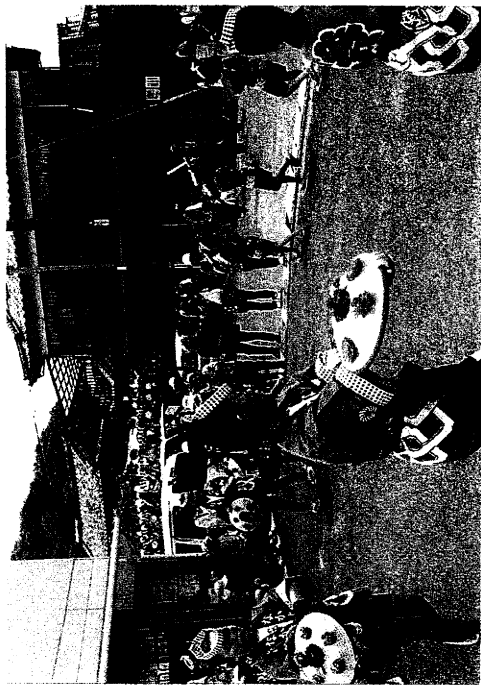
もう一つ、継承が危ぶまれているものがあります。乗子の太鼓の打ち方です。以前は青年団の方が指導して下っておりましたが最近では乗子OBが担当してくれていました。しかし、三年間のブランクで教えてくれた子供供たちも高校生・大学生となり、身近にいななくなっている状況にあります。コロナ禍ではありますが、もみ山の太鼓が鳴り響く体験コーナー等の設定も欲しいところです。

巨大なジグゾーパズルを埋めるような作業ですが、歴代の乗子の名簿も手掛けています。これに開作の三浦進さん（当時、北二）が名乗りを上げてくださいました。相棒は、岡村賢二さん（宮の下）だったとのこと。当時の様子もいろいろと教えて頂きました。

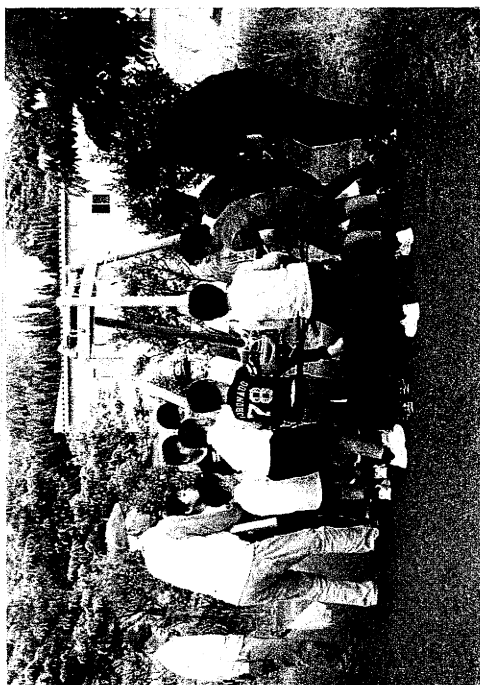
編集後記

ある町で「祭りの休止が続き、やらんでもようーなったんで楽になった」と漏らされた方があったと聞きます。これまでの「ご苦労を察し、お気持ちには身に沁みてよく分ります。でも、日常生活が緩和される中で、大きな都市の盛大な祭りは再開され、小さな町の祭りは消えていく憂き目にさらされています。

止めるのは簡単だが、再開は至難の業だと言います。道のりは決して平坦ではありませんが、できるといって、みんなで、踏ん張ってみようではありませんか。



今のしやぎり「花笠音頭」の演舞



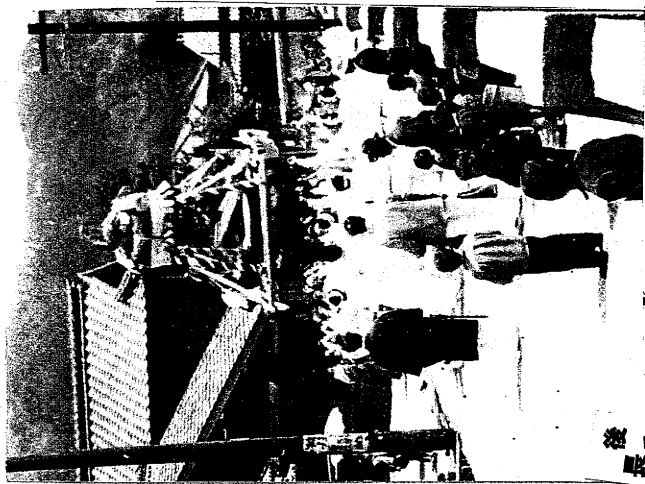
今のもみ山 練習風景と本番



大妻瀨根神社例大祭「加勢」

もみ山・しやぎり等の
後り変わりり

青年団が担ぐもみ山の雄姿



当時のキャラクター等が山車に乗ったことも

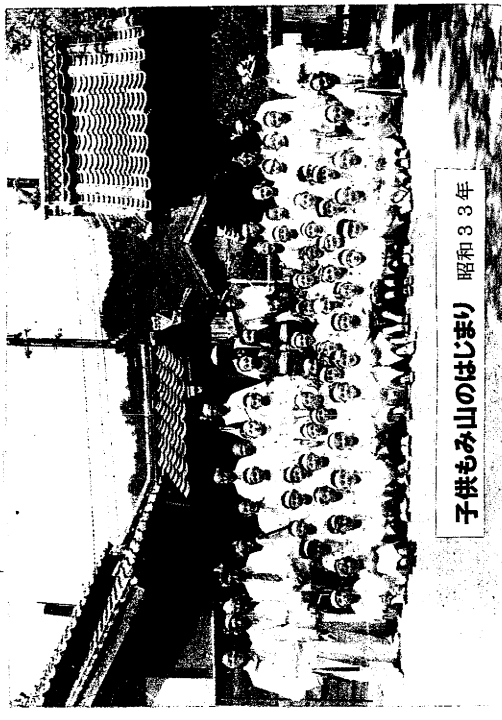


リヤカーに乗る乗子
昭和35年

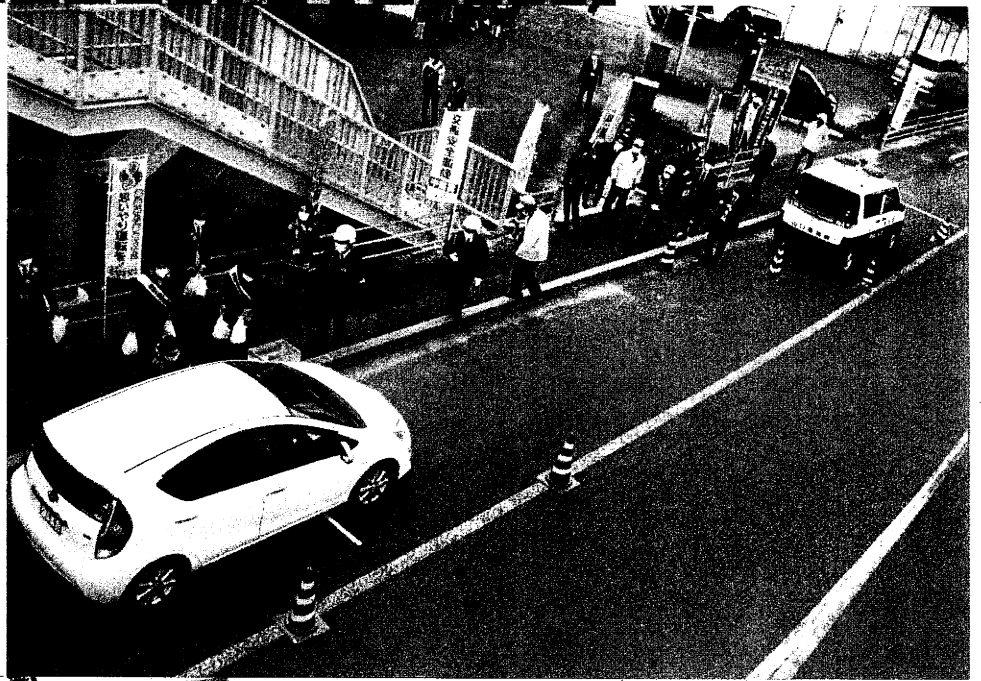
大正時代か



戦後初のもみ山



子供もみ山のはじまり 昭和33年



のぼり旗の掲揚と
交通安全キャンペーン